

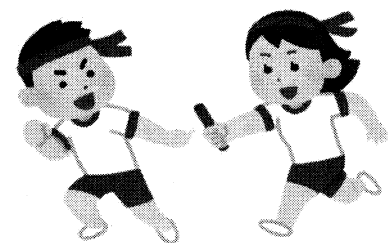
3人4脚



R2. 10/9(金) 第7号
二宮西中学校学校だより
発行者:和田 智司

多くの方のご参観・ご支援に心より感謝申し上げます

～知恵と工夫をこらして創り上げた体育祭。生徒と教職員を誇りに感じる体育祭でした～
好天に恵まれた10月2日(金)。今年度最初の大きな学校行事である第41回体育祭を開催することができました。当日は、ご多用の中、多くの保護者の方に参加をいただきました。心より御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を図りながらの実施となりましたが、ご理解・ご協力いただきましたことに対して重ねて御礼申し上げます。多くの方の支えによって体育祭を開催することができ、予定通りプログラムを実施することができました。



本年度の体育祭は、さまざまな制約のある中で生徒・教職員が互いに知恵を出し合い、工夫を重ねての開催となりました。授業数確保の観点から、練習は保健体育の授業を中心としながら、昼休み、特別活動の時間を有効利用してきました。ソーシャルディスタンスを保つために、生徒および保護者の応援席を工夫しました。今回の体育祭は、コロナ禍の中でしたので、数多くのプログラムが変更されたコンパクトな体育祭であったにもかかわらず、生徒は例年と変わらぬ前向きな気持ちでそれぞれの種目に全力で取り組んでくれました。

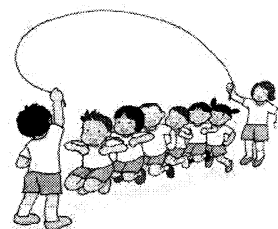
一番印象に残ったのは、「子どもたちの笑顔」です。また、自分が演技をしていない時にも各応援席でクラスの仲間と同じ色の仲間を応援する姿に笑顔が満ち溢れていました。この笑顔がこの体育祭の素晴らしさを物語っていると思います。今回の体育祭は、逆境に負けず、知恵と工夫をこらして創り上げた体育祭。生徒と教職員を誇りに感じる行事となりました。また、それを支えてくださった多くの皆さんに感謝を感じた半日でもありました。

本当の意味での「勝利」をめざして・・・

※体育祭の開会式での私の言葉です。紹介させていただきます。

みなさんおはようございます。本日は好天に恵まれ、第41回の体育祭が、無事開催されることを大変うれしく思います。

短い練習期間ではありましたが、体育委員を中心に、皆さんしっかりと練習に取り組んでいました。今日はその成果を遺憾なく発揮して欲しいと思います。



皆さんにとって今日の体育祭の目的は何でしょうか？・・・私は、「優勝」という結果だけを求めるのが目的ではないと考えます。クラスの仲間と共に心をつなげて頑張る、練習に取り組むことによって得た、クラスの仲間との信頼感と連帯感、これらのことは、賞を取ることもより大切なことだと思います。

保護者の皆様、早朝よりご来校いただき誠にありがとうございます。躍動する生徒の姿をご覧いただき、温かい応援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは生徒のみなさん、クラスの仲間、そして色別の仲間と心をつなげて、信頼感と連帯感をさらに一層高めて欲しいと思います。・・・本当の意味での「勝利」をめざして頑張ってください。期待しています。

ほぼ全校生徒と面接できました・・・子どもから学ぶ・子どもと学ぶ

夏休み中に3年生、8/19から1年生、9/28から2年生と面接を行いました。1年生は4分間、2年生は5分間、3年生は8分間という短い時間ではありましたが、おかげさまでほぼ全校生徒と面談を行うことができました。面接を実施する前に、「より良い中学校生活を送るために(1・2年生)、自らの進路の実現に向けて(3年生)」という表題を付けた面接シートへ記載した質問に対する自分の回答を書いてもらいました。当日はそれを活用して面接を実施しました。



毎日の学校生活において、色々なことを体験し、一つひとつを成し遂げながら子どもは、成長してきています。しかし、場合によっては、友人関係、学級の中での問題、部活動の中での問題など子どもによっては悩みを抱えることもあります。

「悩む」ということは確かに辛いことですが、悩みを克服することにより人は成長していきます。私達教職員は、すべての生徒の様子を見守りながら、一つひとつの問題に、**耳+目+心=聴く**ことを大切にしていかなければならないと思っています。1年生との面接では、①自己紹介および②中学生になった今、頑張っていたことについて聞きました。・・・②に対して生徒たちからは「自分に全力を尽くしたい」、「社会のルール・マナーを身に付けて自立できる大人になりたい」といった1年生の回答とは思えない素晴らしいものもありました。・・・今後とも地域・保護者の皆さまと連携し、生徒たちの成長をしっかりと支援していきたいと思います。

チャップリンの逸話から学ぶ・・・「高みを目指す姿勢」と「最大限の努力」

10月は一年のうちでも、特に落ち着いて学習に取り組める時期でもあります。整然とした授業風景、その内容を益々充実させ、一人ひとりの生徒に確実な「伸び」「確かな学力」を育むことが私たちの責務であります。ぜひ、生徒の皆さんには、一層主体的に取り組んで欲しいと思います。また、ご家庭でも主体的に「学ぶ」ことの価値を意識して取り組むことの重要性について話し合う機会をお持ちいただけますようお願いいたします。

さて、イギリスの映画俳優で映画監督、そして、世界三大喜劇王の一人、チャーリー・チャップリンが、ある時記者に質問されました。内容は「今まで創られた映画の中で最高傑作は何ですか？」彼は、言下に「Next one」、次の作品だ。と答えたという逸話です。常に向上心を持ち、そのつど、最大限の力を蓄え、そして最善のものを追求するという姿勢は胸を打ち、その逸話が、多くの日本人に支持されてきたのうなずけます。学校という世界でも、私たちの基本的なスタンスとして捉えなければならぬと強く思います。つまり、常に次の高みを目指し歩み続ける。このことが一人ひとりの生徒の豊かな成長を支える。そのように考えます。

しかし、この話には続きがあり、日本ではこの逸話は有名ですが、海外では「チャップリンがそんなことを言うはずがない」という意見もあるようです。それは、チャップリンの娘ジョセフィンの言葉に代表されます。すなわち「父は徹底的に満足行くまで作品を創り続けた。自分を追い込み、血のにじむような努力をした。『Next one』がベストで「次はもっとうまく出来る」なんていうのは凡人の台詞」。どちらの逸話が真実であるにせよ、『常に向上心を持ち、今よりもさらに高みを目指す姿勢』そして、『現状の中で、良いものを創るために最大限の努力を怠らない』という二つのことを、これらの話から学ぶことができます。

本年度も残り半分となりましたが、これら二つの意気込みを持ち、前期の成果と課題を確認しつつ、全力で職員一同授業改善を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。